

第3学年 **お店をひらこう**  
 ～身近な物のさまざまな形を活かして見立てよう～

めあて

- ・身近にある生活用品などが、工夫次第でいろいろな作品に生まれ変わることをのもしろさや可能性に気づく。
- ・持ち寄った紙切れや廃材をよく観察し、構想し加工して、「お店の商品」をつくりあげる。
- ・架空の「お店」を運営し、制限のある材料と時間の中で、商品を開発、展開、販売という一連の流れを経験する。



<左：緩衝材で王冠>  
 <右：段ボールで筆箱>



<空き箱を組み合わせたくじ引き箱でゲーム屋さんを開いたよ。>

準備物

(児童) 身の回りにある紙、反古紙、包装紙、空き箱、教材の余り、などの廃材。  
 (教師) テープ、ボンド、色画用紙、マジック、看板、展示スペース。

学習の流れ	実践上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「お店」を開くことを提案する。</li> <li>○どんな材料が必要か相談していく。</li> <li>○集めた廃材を加工し、制作する。</li> <li>○「お店屋さんごっこ」を楽しむ。</li> <li>○次の展開を相談し、制作していく。</li> <li>○「お客さん」に来てもらおう。</li> <li>○社会科や総合的な学習にむすびつけ、学級活動でふり返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看板と敷地（展示場所）と大まかな材料について助言する。</li> <li>・あとは児童が主体となってどんなお店を開きたいか。</li> <li>・教室や学校の至る所にある廃材を、自分たちのお店の商品として作り変え制作させる。</li> <li>・廃材をどう見立てどう作り変えたか評価する。</li> <li>・休み時間などを使って販売（ごっこ遊び）する。</li> <li>・制作や販売の反省から、次はどんな作り方、見せ方、売り方が必要かを話し合わせる。</li> <li>・他の学年の児童や教員に見てもらう。</li> <li>・実際に販売（ごっこ遊び）まで行くと、材料の調達に関する問題や、敷地、営業時間、他店との衝突などの現実を目の当たりにする。社会科の小売業の学習や、まちのお店などを見学する総合的な学習とも関連した授業展開をする。</li> </ul>

